

■平成 31 年度 前期選抜 入試問題分析【国語】

■問題分析

1. 全体を通して

例年通り大問 5 問の構成であった。おおまかな出題内容は変わらなかったが、出題の順番が変更され、小説は第一問から第三問へ、説明的文章は第二問から第四問へそれぞれ移動している。それぞれの本文自体は難しくない一方、記述に難しいものがあるため、取りやすい問題でどれだけ取りきれたかが合否を左右すると思われる。

2. 大問ごとの分析

第一問は例年であれば小説であるが、今年は知識問題であった。漢字、行書、敬語といった出題内容はほぼ昨年度通りであり、十分満点を狙えるレベル。

第二問は発表とそれに関する資料についての読み取り問題である。設問や資料それぞれの内容は難しくなかったが、複数のものを参考にしながら解答することに難しさを感じた受験生もいただろう。

第三問は小説である。全体的に得点しやすい問題が並んだが、問五の記述は本文全体を根拠に解答を作成しなければならず、非常に難しい。

第四問は説明的文章。記述問題は 2 つあり、問四は「食料」だけでなく「衣食住」について書けたかどうか得点の鍵である。問五は 50 字の記述だが、傍線部とその少し前を読めば書けるものなので、ここは正解したいところである。

第五問は 3 年連続で漢文が出題された。内容はやや難しく、設問も問三の難度が高い。

■出題・配点一覧

単元	形式・内容	問題数	配点	小計
国語知識	漢字の読み書き	8	16	24
	記号選択(行書・品詞・熟語)	3	4	
	敬語の書き換え	1	2	
発表・資料読解	書き抜き	1	2	18
	記号選択	3	8	
	記述	2	8	
小説	記号選択	4	12	24
	書き抜き	1	3	
	記述	2	9	
説明的文章	記号選択	3	9	24
	書き抜き	2	6	
	記述	2	9	
漢文	記号	2	4	10
	書き抜き	1	2	
	記述	1	4	